

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数の予測（2007年3月）

発表日：2007年4月27日（金）

～ D I 一致指数は3ヵ月連続の50%割れに ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ D I 先行指数は40.0%、D I 一致指数は22.2%を予想

4月27日時点で公表されている統計により3月の景気動向指数（5月9日公表予定）の予想を行った。

D I 先行指数は10指標中4指標（最終需要財在庫率指数、消費者態度指数、東証株価指数、中小企業売上げ見通しD.I.）が3ヵ月前比改善、6指標が悪化しており、40.0%が予想される。また、D I 一致指数は、9指標中7指標が既に公表されており、すべて悪化している。残りの大口電力使用量¹と所定外労働時間指数（製造業）については、微妙なところではあるが改善を予想する。この場合、D I 一致指数は22.2%になる（レンジ：0.0～22.2%）。いずれにしてもD I 一致指数の50%割れは確定している。（個別指標の動向については図表を参照）。

	系列名	2006												2007		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
先行 系 列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	-	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	+	0	+	+	+	+	-	+	-	-	-	-	-
	新規求人数(除学卒)	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	-	-
	新設住宅着工床面積	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	-	-	-
	耐久消費財出荷指数(前年比)	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-	+	-	-	-
	消費者態度指数	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	+	-	0	-	+
	日経商品指数(42種総合)ー前年比	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
	長短金利差	0	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東証株価指数(前年比)	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+
	投資環境指数(製造業)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	中小企業売上げ見通しD.I.	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	+	+	+
	先行指数	70.8	91.7	58.3	54.2	70.8	58.3	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	40.9	27.3	40.0
	一 致 系 列	生産指数(鉱工業)	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-
生産財出荷指数(鉱工業)		+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
大口電力使用量		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+
稼働率指数(製造業)		+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
所定外労働時間指数(製造業)		+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	+
投資財出荷指数(除輸送機械)		-	-	-	+	+	+	+	+	-	+	-	+	-	+	-
商業販売額指数(小売業)ー前年比		0	+	-	-	-	-	+	+	+	0	-	-	-	+	-
商業販売額指数(卸売業)ー前年比		+	+	-	-	+	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-
営業利益(全産業)		-	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
中小企業売上高(製造業)		+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-
有効求人倍率(除学卒)		+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
一致指数		77.3	45.5	27.3	81.8	81.8	90.9	100.0	81.8	72.7	68.2	54.5	63.6	30.0	30.0	22.2

(出所) 内閣府「景気動向指数」

(注) 1. 3ヵ月前の値と比較して改善は+、横ばいは0、悪化は-として表示。

2. 網掛けは第一生命経済研究所予測値。

D I 一致指数は22.2%と、1、2月に続いて3ヵ月連続で50%を割り込んだと予想される。簡易的な判断基準として、D I 一致指数が3ヵ月連続で50%を下回れば景気後退と言われることが多いため、景気後退

¹ 大口電力使用量は、原系列は既に公表されているが、景気動向指数では内閣府で独自に季節調整を行った系列を用いているため、改善か悪化かはまだ未確定である。

局面入りを主張する声が増えてくるだろう。

もともと、このままD I一致指数が50%を割り続け、景気後退局面入りする可能性は小さいと考える。1-3月期の鉱工業生産は前期比▲1.4%と6四半期ぶりに低下したが、これは10-12月期に高い伸びだった反動の面も大きい。また、4、5月の製造工業生産予測指数は前月比+1.5%、+1.4%とそれぞれ増加が見込まれるなど、生産が先行き落ち込んでいく姿は想定されていない。また、1-3月期のGDPは、10-12月期に続いて潜在成長率を上回る高成長になったと予想されている。こうしたことを考えると、2007年前半に生じる景気減速はかなり軽微なものにとどまると予想でき、景気後退局面入りは避けられるだろう。D I一致指数は、当面50%近傍の推移を続けた後、2007年後半には再び50%を安定的に上回ってくると予想する。

